

城山ハイキングの遍歴と終結

代表 木村 晃

1987年「美ヶ原」で始まった城山ハイキングも2017年10月の「北八ヶ岳白駒池」まで30年間41回実施することができた。第5回1994年6月5日「谷川岳一ノ倉沢」は子供13人、大人37人合わせて50人の参加でハイキングをした。皆さんがそれぞれに思い出をつくられたことでしょう。例えば黒澤陽美さんは谷川岳の雪渓で家族の写真を撮った。今思うと大変懐かしく歴史を感じる。小柴準子さんは御主人が初めてハイキングに誘って一緒に谷川岳に参加した。悲しいかな翌年御主人は亡くなられた。以後最後迄ハイキングに参加している。第7回1998年10月10日「湯の丸山」は特に感動した。頂上に登ると360度のパノラマである。北アルプスが一望に見える。あの日本の麗峰である富士山も眺望できた。下山するのが惜しい。何年も山や高原等をハイキングして来たが参加者が壮年から初老そして老年へと年を経る。この現実を直視しなければならない。幹事会を開いてハイキングの内容を大胆に変更した。ハイキングに歴史と文化を加えた。行動はソフトに、内容を豊かにした。誰でも参加可能にした。第31回「奥日光の戦場ヶ原」その名の由来は、栃木の男体山の主大蛇と、群馬の赤城山の主大百足とが戦った場所で大蛇が勝ったという伝説がある。第34回「秩父蓑の山」は、沢山の銅を産出

した。日本最古の貨幣「和同開珎」その大きな模型の前で記念撮影をした。吉村博生氏の尺八の演奏に静かに古代を偲んだ。最終回の「八千穂高原高見石・白駒池」は苔が見事で感動した。ハイキングで訪れた県を列挙すると、長野県17回、群馬県12回、山梨県4回、栃木県3回、東京2回、神奈川県1回。全参加総数1871人。お別れ会参加者28人。合計1899人となる。2017年12月3日「かんなの湯」にて、1987年から2017年の30年間41回継続した城山ハイキングを役員および参加者全員で終結とする。思いを馳せながら41回のハイキング前半と後半に分けて放映した。中間で吉村氏の尺八、アコーディオンの今野雪江さん、ギターの黒澤陽美氏の演奏に全員が感動の拍手喝采であった。最後はハイキングの帰りのバスで唄った歌エンディング曲「高校三年生」「学生時代」「故郷」の3曲を全員で合唱した。感動の余韻がいつまでも心に残る。

城山ハイキングを支えてくれた役員をここで紹介します。城山1丁目 島山英雄、渡部孝男、梅香好人、伊藤勇次。城山2丁目 矢田部正、市原守雄、松田邦夫、渋谷宇八。見晴台 大場健生の皆さんです。ハイキングコースの企画と立案、安全性と難易度を全員で検討した。反省会は各幹事が参加者の意見をまとめて次回の参考資料とした。素晴らしい仲間・幹事達である。小生がその代表の木村晃です。この幹事さん達の支えにより30年間41回のハイキングが実現しました。ありがとう！

